

低コスト作業路の普及に向けた取り組みについて

～ 低コスト作業路オペレーター養成研修がスタート ～

県南広域振興局では、木材生産コストの低減効果を実証・PRし、森林経営意欲が低下している森林所有者の経営意欲の喚起を図るため、平成19年度から地域振興推進費事業を活用し、『低コスト』でかつ災害に強い『恒久的』な作業路の普及を目指しています。

平成19年度の取り組みは“**四万十式**”と言われ、全国的に注目されている工法を採用し、奥州市江刺区の財産区有林をモデル地とし、**L=1,000m・W=3.0m**の低コスト作業路を開設しました。(詳しくは岩手の林業2008年2月号参照)

平成20年度は、当該作業路普及に向けて、絶対的に不足しているオペレーターの養成を図るため、県南広域管内3会場で、1会場当たり5日間の技術者養成研修を企画したところです。第1回目となる研修は、千厩農林センター管内の私有林を会場に、9/24～9/30(土日を除く)5日間行われ、県南広域管内の素材生産業者、森林組合など述べ**41名**(うち重機操作者**13名**)が参加し、低コスト作業路の必要性や四万十式低コスト作業路の基礎知識・表土ブロック積み工法、根株・支障木を活用した盛土補強工法などのノウハウを学びました。



佐々木講師による徹底指導

重機操作を学んだ研修生の殆どは、日頃から現場でグラブプルやプロセッサなどのオペレーターであったことから、始めは四万十式工法に四苦八苦しながらも、土の使い方・根株処理の方法などの技術習得に努めていましたが、さすが日々実践をつまめた方々だけあり、飲み込みは☆ピカイチ☆でありました。

当研修で現地指導(講師)を務めていただいた、明和フォレスト(有)の佐々木和彦氏の懇切丁寧な指導の甲斐もあり、研修期間中(雨で1日中止☔)に開設した作業路延長は**230m**となり、日当り施工量は約**66m/日**(230m/3.5日)となりました。

今回の研修により、多くの技術者を養成することができました。

今後、この研修により修得した技術を、研修生が各現場で実践・普及していくことを期待します。



根株や支障木を有効活用

☞お知らせ(今後の研修計画)

- 北上会場
10/20～24日(北上市口内地内)
 - 一関会場
11月下旬(一関市弧禅寺地内)
- ☆県南広域管内以外からも参加可能☆